

所員の研究、試験および検査に関する発表を主とする「衛試例会」は、昭和26年から原則として毎月第2火曜日、第一会議室において開催されているが、平成8年度に行った演題は次のとおりである。

第391回 (平成8年4月9日)

1. 固相抽出法を用いたピーナッツ等中のアフラトキシン迅速定量法
食 品 部 穂 山 浩
2. アミノ酸加熱分解産物 (MeIQx) の低濃度領域における発癌リスク評価
病 理 部 田中丸 善 洋
古 川 文 夫
3. 細胞増殖能およびアポトーシスを指標とした精巢毒性の形態学的解析
病 理 部 安 原 加壽雄

第392回 (平成8年5月14日)

1. Butyl benzyl phthalate のラット発生毒性における Monobenzyl phthalate の役割
大阪支所生物試験部 江 馬 真
2. DNA 損傷の早期マーカーとしての核小体分離; 4-Hydroxyaminoquinoline1-oxide 投与ラットにおける検討
病 理 部 今 沢 孝 喜
3. P53の突然変異によるゲノムの不安定化と多段階発ガン過程におけるその意義
変 異 遺 伝 部 本 間 正 充

第393回 (平成8年6月11日)

1. キャピラリー電気泳動によるカンゾウ含有総合感冒薬中のグリチルリチン酸と有効成分の一斉分析
薬 品 部 最 所 和 宏
2. ラテックスアレルギーと植物の生体防御タンパク質
療 品 部 矢 上 健
3. 市販ベニコウジ色素の分析と D-アミノ酸を含む主色素成分の構造決定
食 品 添 加 物 部 佐 藤 恭 子
合 田 幸 広
4. 化学計算を用いた立体選択的反応の解析と予測
有 機 化 学 部 栗 原 正 明

第394回 (平成8年7月9日)

1. メチルパラベン, エチルパラベンあるいはサリチル酸を透過指標物質とした非イオン性界面活性剤のポリオキシエチレン (EO) 鎖の剥離皮膚への影響
環 境 衛 生 化 学 部 徳 永 裕 司

2. トリブチルスズのラットにおける妊娠初期投与の母体及び胚に対する影響
大阪支所生物試験部 原 園 景
3. 2,5-Di(*tert*-butyl)-1,4-hydroquinone 投与ラットの運動終板における超微形態的变化
病 理 部 今 沢 孝 喜

第395回 (平成8年9月10日)

1. アラマイトおよびフェニルエーテル系農薬90日間投与によるイヌ肝臓および胆嚢への影響
毒 性 部 梅 村 隆 志
2. 大腸菌 mutM 遺伝子の発現誘導とその機構
変 異 遺 伝 部 鈴 木 任
3. パルスドフィールドグラジエントスピネコー法によるハイドロゲル中の薬物の拡散係数の測定
薬 品 部 阿 曾 幸 男
4. 三稜の成分に関する研究 (2)
生 薬 部 代 田 修
5. 馬勃の化学的研究 (2)
生 薬 部 川 原 信 夫

第396回 (平成8年10月8日)

—特別例会—

「ネットワークの研究への応用と情報公開」

1. NICI (NIHS Information and Computing Infrastructure) の現状
化学物質情報部 中 野 達 也
2. インターネットを利用した化学物質安全性情報の収集と提供
化学物質情報部 山 本 都
3. 部内ネットワークの構築とインターネット活用事例
療 品 部 伊 佐 間 和 郎
4. ホームページ作りの体験談—片手間にできる情報発信—
変 異 遺 伝 部 鈴 木 孝 昌
5. PCネットワーク (ホームページ) による個人データベースの提供
総合評価研究室 広 瀬 明 彦
6. FOLIO インフォベースサーバーの構築と培養細胞情報の提供
変 異 遺 伝 部 水 沢 博
祖父尼 俊 雄
7. 総合討論 (Q&A)

第397回 (平成8年11月12日)

1. ノルエフェドリン光学異性体の腎および肝血流におよぼす影響
生 薬 部 鎌 倉 浩 之
2. Chromoclesta malachitea の代謝産物の研究
生 薬 部 江 崎 勝 司
3. トルエン乱用による生殖発生への影響—ラットにおける妊娠前および妊娠初期吸入暴露による検討—
毒 性 部 小 野 敦
4. *p*-Phenylenediamine 系ゴム老化防止剤の皮膚感作性
毒 性 部 門 馬 純 子

第398回 (平成8年12月10日)

1. キャピラリー電気泳動による大豆中の除草剤の分析法の検討
食 品 部 根 本 了
2. ベトナム産 *Dalbergia cochinchiensis* の成分に関する研究
生 薬 部 代 田 修
Vibha Pathak
3. エンドセリンの心臓抑制作用機序の解明
生 薬 部 小 野 景 義
4. Irgasan DP300のラット肝薬物代謝酵素およびポルフィリン代謝に対する影響
環 境 衛 生 化 学 部 神 野 透 人
5. クロロニトロフェン (CNP) および CNP アミノ体による肝薬物代謝酵素の変動
環 境 衛 生 化 学 部 埴 岡 伸 光

第399回 (平成9年1月14日)

1. 食品含有フラボノイド類の溶液中及びリポソーム中での抗酸化活性
食 品 部 近 藤 一 成
2. 農産物中の残留農薬分析に対する超臨界流体抽出の適用—穀類試料について—
食 品 部 根 本 了
3. Dimethylnitrosamine (DMN) により Big Blue マウスに誘発された突然変異のスペクトル
変 異 遺 伝 部 王 雪
4. In vitro 培養細胞系での Benzo[a]pyrene 及び7, 12-dimethyl-benz[a]anthracene の数的異常誘発
変 異 遺 伝 部 松 岡 厚 子

5. ゴム老化防止剤メルカプトベンズイミダゾール及びそのメチル誘導体の甲状腺に及ぼす毒性のトキシコキネティクスによる比較検討
薬 理 部 酒 見 和 枝
6. アドリアマイシン高容量単回投与によるラット精巣毒性病変の病理発生とその予後
病 理 部 安 原 加 壽 雄

第400回 (平成9年2月12日)

1. RAPD 及び RFLP 分析による大麻 (*Cannabis satiba*) の系統解析
生 薬 部 代 田 修
2. 攻撃行動に関する近交系マウスを利用した神経精神薬理学的研究
薬 理 部 藤 森 観 之 助
3. 心筋細胞のカルシウムイオンダイナミクスの視覚化
生 物 薬 品 部 川 西 徹
4. トランスジェニックマウスを用いる変異原性試験に関する共同研究の成果
変 異 遺 伝 部 鈴 木 孝 昌

第401回 (平成9年3月11日)

1. 南米産生薬“palo de sangre” (*Brosimum rulescens*) の抗アンドロジェン活性成分に関する研究
生 薬 部 代 田 修
2. 形状の異なるポリウレタンのラット皮下埋植による組織反応及び催腫瘍率の差異について
毒 性 部 梅 村 隆 志
3. ウレタンとその代謝物に対する c-Ha-ras 遺伝子導入マウスの発癌感受性及び誘発腫瘍の遺伝的解析
病 理 部 三 森 国 敏
4. 新しい変異原性試験法 マウスリンフォーマ試験 (MLA) の有用性について
変 異 遺 伝 部 本 間 正 充
5. G-CSF による HL-60細胞の活性酸素生成酵素の機能的成熟とそれに関わる因子の解析
生 物 薬 品 部 小 木 美 恵 子
6. アフリカツメガエル卵母細胞発現系を利用した ATP 受容体チャンネルの各種物質による調節に関する研究
薬 理 部 中 澤 憲 一

第148回 (平成8年4月23日)

1. 脂肪乳剤の凍結時の粒子径増加に対する添加塩の抑制効果—静脈注射用脂肪乳剤の凍結保存法への応用—
薬品試験部 小松裕明
2. ヒトインスリン水性懸濁注射剤の光回析法および光遮蔽法による粒度評価
薬品試験部 北島文
3. サラダ油, 玄米, 大豆中ピレスロイド系農薬分析時における脱脂行程の検討
食品試験部 中村優美子
4. ジ, トリおよびテトラブチルスズのラットにおける比較発生毒性
生物試験部 江馬真

第149回 (平成8年6月25日)

1. 玄米中トリシクラゾールのGC分析における遊離脂肪酸の影響とその除去法
食品試験部 津村ゆかり
2. トリブチルスズの妊娠初期投与によるラット母体及び胚に対する影響
生物試験部 原園景

第150回 (平成8年9月26日)

1. 低温DSC測定によるヒアルロン酸の水和挙動
薬品試験部 四方田千佳子
2. 食品添加物公定書ヒ素試験法における「検液の調整」の改良に関する検討
食品試験部 石光進
3. キサンテン系食用色素の光照射による安定性およびハロゲンイオンの遊離
食品試験部 三島郁子

第151回 (平成8年10月22日)

1. 昆虫の特異な生体防御反応系と微生物検出試薬としての応用化
支 所 長 小川義之

2. ガラクトース負荷したイヌにおける網膜症発症へのポリオール経路の関与
薬品試験部 谷本剛
3. ラット生体内におけるアルドース還元酵素及び一酸化窒素合成酵素 mRNA の発現
薬品試験部 前川京子
4. 天然にも存在する食品添加物 生鮮食品及び加工食品中の天然由来の食品添加物含有量調査研究
食品試験部 柴田正

第152回 (平成8年12月24日)

1. 低分子化に伴うヒアルロン酸の分子量分布の変化
薬品試験部 宮崎玉樹
2. ヘパリンの力価測定法の現状と問題点
薬品試験部 吉井公彦
3. GCによる農作物中トリアジン系除草剤並びにその代謝物の迅速分析法に関する活動報告
食品試験部 外海泰秀

第153回 (平成9年1月28日)

1. 日局13「分析法バリデーション」について
薬品試験部 岡田敏史
2. 電気化学検出器を用いたトコトリエノールの逆相HPLCについて
食品試験部 辻澄子
3. ヒトメラノーマ細胞に対するインターロイキン1の増殖抑制作用の解析
生物試験部 村井敏美
4. アスパラガス (*Asparagus officinalis*) 培養細胞の生産する芳香族アセチレン化合物に関する研究
生物試験部 寺田衣子

 特別講演会

- 平成8年5月24日
ヒュー・マウス（難疾患解明用モデル動物）の開発
東海大学・医学部助教授 上山 義人
- 平成8年5月28日
新しい放射線測定技術と薬物評価への応用
1) 薬物評価研究におけるラジオルミノグラフィー
東京薬科大名誉教授 馬場 茂雄
2) 新しい放射線測定技術
富士写真フィルム 浜岡 勤
森 啓司
- 平成8年6月21日
酵素として機能するRNA (ribozyme) のつくり方と
つくり方
京都大学教授 井上 丹
- 平成8年7月11日
生物多様性条約と薬用資源植物の研究・開発
日本大学薬学部教授 小山 鐵夫
- 平成8年7月12日
ヨーロッパの規制システムについて
オランダ国立公衆衛生環境研究所 Dr. van der Laan
- 平成8年7月16日
Pharmaceutical Information on the Internet
マンチェスター大学・薬学部 Dr. A.J.D' Emanuele
- 平成8年8月1日
腸管出血性大腸菌 O157
国立小児病院小児医療研究センター部長
竹田 多恵
- 平成8年9月6日
食品及び天然薬物中の殺線虫活性物質
金沢大学薬学部 木内 文之
- 平成8年9月13日
QOL と骨粗鬆症
順天堂大学助教授 千葉 百子
- 平成8年9月24日
Facilitating Clinical Trials of Novel Biotechnology-
derived Therapies: Impact of Preclinical Safety Evalu-
ation
FDA・Center for Biologics Evaluation and Research
Dr. Joy A. Cavagnaro
- 平成8年9月26日
多環芳香族炭化水素類のバクテリアによる代謝
NIDDK, NIH USA 八木 治彦
- 平成8年10月21日
P450NULL MICE: AHR null mice and PPAR alpha null
mice
National Institutes of Health, USA
Dr. Frank J. Gonzalez
- 平成8年10月30日
有害大気汚染物質測定法の現状と今後の課題: ニトロ
アレーン
金沢大学薬学部教授 早川 和一
- 平成8年11月13日
アポトーシスと病気
佐々木研究所所長 橋本 嘉幸
- 平成8年11月15日
家庭用殺虫剤の室内挙動予測と安全性評価
住友化学工業株式会社生物環境科学研究所
的場 好英
- 平成8年11月15日
テロメア・テロメラゼと細胞の癌化
広島大学教授 井出 利憲
- 平成8年11月22日
Mechanisms of Carcinogenesis, as a basis for effective
cancer prevention
American Health Foundation, U. S. A.
Dr. John H. Weisburger
- 平成8年12月17日
ヒト上皮組織の再生維持機構と発癌
神奈川県立癌センター研究所 安本 茂
- 平成8年12月20日
エリスロポエチンの中枢神経系における新しい生理機能
京都大学農学部教授 佐々木隆造
- 平成9年1月22日
海洋産生理活性天然物の研究
理化学研究所 中田 忠

 支所特別講演会

- 平成8年11月26日
ダイオキシン類汚染の現状とその対策
摂南大学薬学部教授 宮田 秀明